

CHIBA UNIVERSITY

FINANCIAL REPORT 2016



平成27事業年度 財務レポート

平成27年4月1日～平成28年3月31日



CHIBA
UNIVERSITY

VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021	2
01 最新のトピックス	
国際社会で活躍できる次世代型人材の育成	3
02 最新のトピックス	
研究三峰（トリプル ピーク チャレンジ）の推進	5
03 研究成果の実用化	
株式会社アミンファーマ研究所	7
株式会社サーマス	8
農業生産法人株式会社理想郷／株式会社向後米穀	9
サージカルアライアンス株式会社	10
04 千葉大学 SEEDS 基金	11
05 附属病院について	
医学部附属病院	13
06 学外から利用できる機器の紹介	
共用機器センター	15
07 データで見る千葉大学	17
08 平成27事業年度決算について	
ファイナンシャルハイライト	18
国立大学法人会計の仕組み	19
貸借対照表の概要	21
損益計算書の概要	23
財務指標	25
セグメント情報	27
財務諸表等の計数推移	29

千葉大学憲章

千葉大学の理念

つねに、より高きものをめざして

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかわりあいを持ち、普遍的な教養（真善美）、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

1. 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育んでいく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。
2. 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。
3. 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。
4. 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

2005年10月11日制定

世界に輝く未来志向型の 総合大学へ！

平成16年度の国立大学法人化以降、千葉大学では「つねに、より高きものをめざして」を基本理念に掲げ、教養（普遍）教育の充実と教育活動の国際化を積極的に進めるとともに、学問の多様性を尊重しつつ、世界レベルの基礎研究や応用研究を強力に推進するなど、世界を先導する創造的な教育・研究活動の実践を通して、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、たゆみない挑戦を続けてまいりました。

平成28年度からの第3期中期目標期間を迎えるに当たっては、国内外の急激な社会変化により人類が直面する様々な課題を的確に捉えるとともに、これまでの取り組みから得られた本学の強みや特色、可能性を十分に見極め、本学が有する卓越した研究力と質の高い教育力を、それら課題の解決に向けて効果的に発揮することにより、本学が「世界最高水準の教育研究機能を有する総合大学」としてさらなる発展を遂げていくため、この期間における本学のビジョンを策定いたしました。

千葉大学においては、強みとなる独創的な研究分野への戦略的支援や、次世代型イノベーションの創出、自立した個人として、自主的に学び、グローバル社会の中心となって活躍できる次世代型人材の育成などにより、全学の教職員が一丸となって本ビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。



国立大学法人千葉大学 学長

徳久剛史

VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021

Global

国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

- 国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成
- 「グローバル千葉大学の新生」(スーパーグローバル大学等事業)の着実な実施
- 国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成

Innovation

次世代を担うイノベーションの創出

- イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- イノベーション創出人材の育成と組織改革

Synergy

教職員による協働体制の強化

- 戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化
- 多様な人材（ダイバーシティ）の活用による教育研究活動の活性化
- リスクマネジメントシステムの充実

Research

研究三峰（トリプル ピーク チャレンジ）の推進

- グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援
- 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
- 文理の枠を超えた融合型研究の推進

Branding

千葉大学ブランディングの強化

- 卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上
- 戦略的広報活動の推進
- 卒業生・企業・社会等との連携強化

1 国際未来教育基幹の創設

～世界水準の教育実践と次世代型人材の育成を推進する組織～

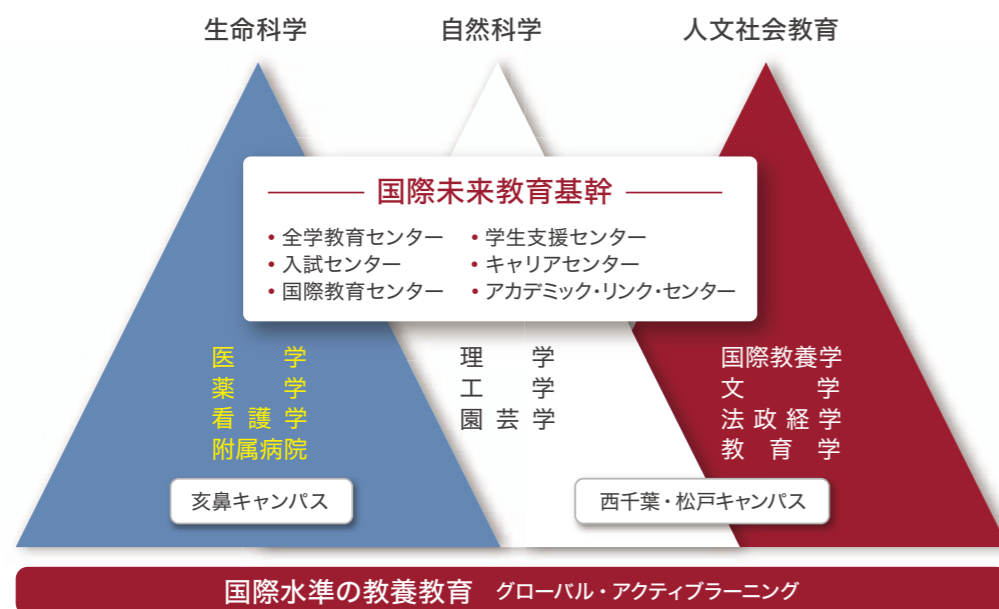
学長を基幹長とする「国際未来教育基幹」を創設し、学長のリーダーシップの下、世界水準の教育実践と次世代型人材の育成を目指します。

実働機関として国際未来教育基幹キャビネットを設け、その下に6つのセンターを配置します。

国際未来教育基幹キャビネットは、海外の高等教育事情や先進的な教育実践に精通している外部有識者を構成員に加え、基幹長に対して教育の国際化の方向性・プログラムを提示する機関です。

各センターは、提案された教育改革や先導的プログラムの実施機関として、教育改革の実現や学習・学生支援に取り組みます。

国際未来教育基幹キャビネットは取組に対する評価を行い、「PDCAサイクル」を構築することで、各般から求められる教学改善を自立的・継続的に行ってまいります。



海外派遣学生数

596名
(平成26年度)国立大学4年連続
(平成23～26年) **堂々第1位**

入学志願者数

11,357名
(平成28年度入試)国立大学 **堂々第1位**

日本学術振興会育志賞

優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援

医学系(H26)と工学系(H27)

2年連続受賞

トビタテ!留学JAPAN

官民協働で取り組む留学支援制度(H26～)

28名採用
(平成27年募集生まで)**派遣学生最優秀賞受賞**

2 グローバル千葉大学の新生 —Rising Chiba University—

平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』」に採択されました。本事業は、我が国の高等教育の国際競争力の向上のため、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、国際化を牽引するグローバル大学に対して支援されるものです。これまでも本学は、平成24年4月に国際化の方針である『グローバル・キャンパス・千葉大学』を策定し、世界を先導する教育・研究を促進する大学を目指し、グローバルに活動する大学となるため、全学を挙げて「スキップワイズ (skipwise) ・プログラム」など様々な取組を展開してきたところです。スーパーグローバル大学創成支援への採択を受け、グローバル化教育のためには「人間力のある人材の育成」が必須であると再認識し、日本を理解し日本をアピールできるグローバルな人材を育成するための様々な取組を実施してまいります。8年後の平成36年度には、世界を代表する未来志向型大学となることを目指し、大学を新生させる覚悟で改革を推し進めてまいります。

● 千葉大学を新生する4つの改革



ガバナンス改革による新生

国際教養部の設置、共学教育の拠点形成、全学教育運営支援組織の構築 + SULA (Super University Learning Administrator)、教職員機能の充実強化



プログラム改革による新生

「ダブルメジャー制度」によるイノベーション人材育成 (TOKUHISA SCHOOL)、留学のための「国際教養学プログラム」設置、「国際日本学」の必修化、セメスター派遣・受入プログラム、大学院ダブルメジャー・メジャーマイナー・プログラム



学修制度の改革による新生

飛び入学の拡大、多様な入試の実施、学事層の見直し、学内教育制度の国際標準化



グローバル・ネットワーク改革による新生

海外キャンパスの設置、アライアンス交流の推進

3 アカデミック・リンク機能の全学的展開

「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を創造するために、「アカデミック・リンク」を立ち上げ、そのコンセプトのもと、アカデミック・リンク・センターは様々な活動を行っています。「アカデミック・リンク」では、静かな学習環境だけでなく、議論や発表のできる空間 (アクティブ・ラーニング・スペース)、紙や電子による教材やコンテンツ (コンテンツ・ラボ)、そして学生の学びへの人的なサポート (ティーチング・ハブ) の3つの機能を提供し「コンテンツと学習の近接による能動的学習の促進」を実現しようとしています。

また、平成27年7月、アカデミック・リンク・センターは教育関係共同利用拠点「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点 (教育・学修支援専門職養成) (アカデミック・リンク・センター)」として認定されました。今後、これからの大学に必要とされる新たな専門的職員として、教育・学修支援専門職の確立と養成を行います。



アクティブ・ラーニング・スペース



コンテンツ・ラボ

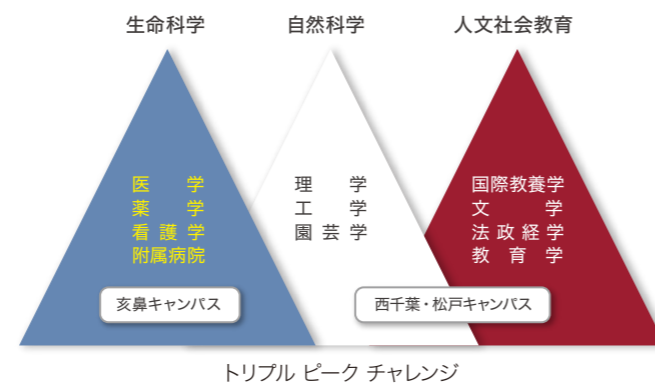


ティーチング・ハブ

1 グローバルプロミネント研究基幹の創設

～世界トップレベルの研究や独創的な次世代研究を戦略的に推進～

千葉大学では、学長のリーダーシップの下、「生命科学、自然科学及び人文社会教育の3分野における世界レベルでの研究(研究三峰)を推進」し、「次世代を担うイノベーションの創出を強力に推進・実現」とともに、国立大学に対する社会的な要請である「イノベーション創出人材の育成」や「融合分野・新領域創出の基礎となる幅広く多様な学術研究の継承・発展」等への貢献を目的とするシステムとして、平成28年4月に「グローバルプロミネント研究基幹」を設置しました。本基幹では、本学の戦略的・重点的推進研究分野等において、分野横断的に実施される研究先鋭化・分野先導プロジェクトを推進するとともに、当該プロジェクトへの重点的な支援を行っています。



トリプル ピーク チャレンジ

2 グローバルプロミネント研究基幹の特徴

グローバルプロミネント研究基幹には、「世界レベルの研究の創出とそれに基づく国際的卓越研究拠点の形成」を進める[1]『研究部門』及び、「次なる本学の重点推進分野を育成」する[2]『次世代研究インキュベータ』の二階層の研究推進部門を設けており、双方に複数の研究プロジェクトを配置しています。

[1] 研究部門

本学の研究の核となる「重点推進分野」として、トップダウン方式により指定した6つの研究分野の中から選定した先鋭的研究プロジェクト群で構成されており、

- ・世界トップクラスの国内外研究者が参画し研究を加速させ、

- ・国内外の先端研究拠点とのネットワーク構築などにより、

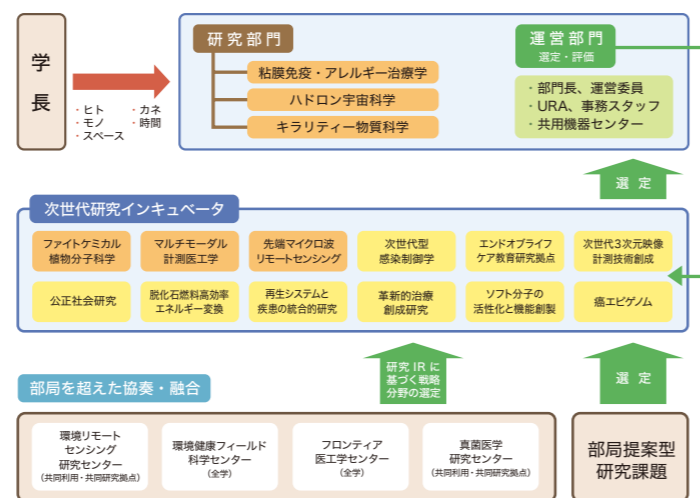
「世界水準の研究拠点の構築」や「革新的イノベーションの創出」を目指しています。

[2] 次世代研究インキュベータ

研究の強化と多様性の確保を目的として、若手・中堅研究者が中心となって推進する研究推進構想のうち、本学の次世代の重点推進分野となり得る研究分野を選定・育成しています。

各プロジェクトに対しては、学長のリーダーシップによって、グローバルプロミネント研究基幹に集約された学内資源(研究人材、機器、研究資金、研究スペース、時間)を用いて、研究推進構想の進捗状況と評価結果を踏まえ「オーダーメイド方式」による重点支援を行っています。このほか、「グローバルプロミネント研究基幹」を総括し、外部有識者を加えた研究プロジェクトの審査・評価、分野分析・目利き、研究資源の集約・重点配分、PDCAサイクルを実践する[3]「運営部門」や、国際レベルの若手研究人材を育成する[4]「育成部門」を設置しており、これらを一体的に機能させることにより、本学の研究力の強化を目指しています。

グローバルプロミネント (GP) 研究基幹

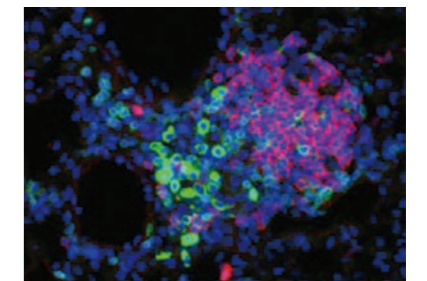


3 研究プロジェクトの紹介

国際粘膜免疫・アレルギー治療学

本研究プロジェクトは、粘膜免疫の理論・技術をもとに、感染症・アレルギー・癌等の新規予防・治療法を開発研究する学術分野である「粘膜免疫・アレルギー治療学」を新たに作ることを目的としています。

この分野の研究により、これからの超高齢化社会において健康に長生きするためだけでなく、公衆衛生を大幅に改善するためのワクチン開発における新コンセプトや技術を世界に向けて発信し、世界の健康増進と生活の質の向上、ひいては医療費の削減に貢献します。

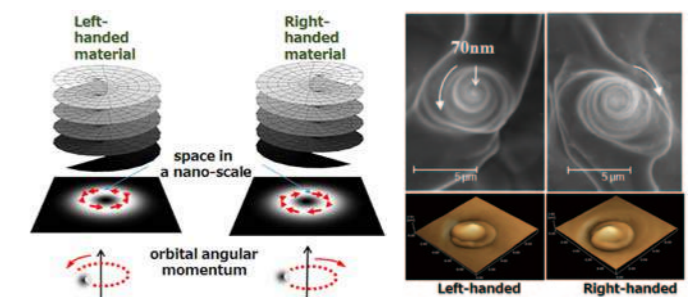


難治性の慢性炎症肺においてはリンパ球の集積(誘導性気管支関連リンパ組織)が認められる。T細胞(緑)、B細胞(赤)、細胞核(青)

キラリティー物質科学

「構成要素が同じなのに立体構造(右手系)がその鏡像(左手系)と空間的に重ならない」という性質をキラリティーと言い、物質の性質を決定する重要な要素です。

光にもキラリティーがあります。もし、光のキラリティーが持つ潜在能力を最大限に活用できれば、これまで誰も見つけることができなかった物質の新奇な性質の発見や従来技術では成しえなかった夢のような性能を持つ素材が実現できる可能性があります。特に、光のキラリティーは物質の構造や電気・磁気特性や光学特性を劇的に変化させるので、エレクトロニクスやエネルギーや環境などの分野に大きなブレークスルーをもたらすかもしれません。本プロジェクトは光のキラリティーを駆使して次世代の新素材創成に貢献します。



“キララな光”で金属や有機薄膜の表面をキララな構造へ変える～100%の収率でキラリティーを物理的に操る

ファイトケミカル植物分子科学

植物が作る多様な化学成分(ファイトケミカル)は、葉や食品、燃料、工業原料などに使われ、我々人間の生命を支えています。本研究プロジェクトは、様々な化学構造を持ち特異な生物活性を有する植物化学成分に関する分子科学的な原理を明らかにする事を大きな目的としています。

さらに、その成果を最終的には植物成分による新しい医薬品や試薬の開発、健康機能食品の開発、化粧品・香料・燃料などの工業原料に応用して、私たちの生活を豊かにする事が目的です。

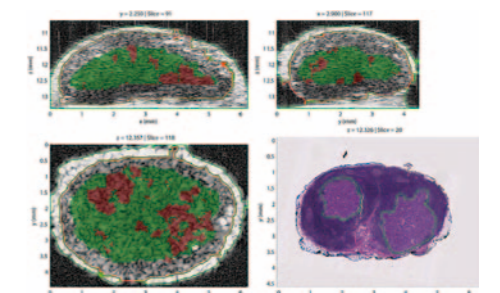


薬用植物の赤ジンソと青ジンソ

マルチモーダル計測医工学

CTやMRI、超音波などの診断装置をモダリティと呼びます。本研究プロジェクトでは、これら様々なモダリティを使い、病気によって引き起こされる体内の変化について、細胞サイズから臓器のサイズでどこに何が起きているのかを工学技術で解明し、それらの関係性も明確化していきます。

新しい医学的知見とともに、新しい高精度で低侵襲な診断・治療技術を送り出すことを目指しており、工学を基盤として、実際に医療に貢献するものを世に出す意気込みで研究を行っています。



超音波による高解像度の画像診断

1 千葉大学の研究成果を実用化して起業

平成19年4月に、千葉大学大学院薬学研究院の五十嵐一衛教授の長年の研究成果を実用化するために、株式会社アミンファーマ研究所が設立されました。血液だけで脳梗塞のリスクが分かる『脳梗塞リスク評価』は全国200か所以上の医療機関で利用されており、年間約18,000人が利用するまでになりました。

2 起業後も大学と産学連携／共同研究を積極的に推進

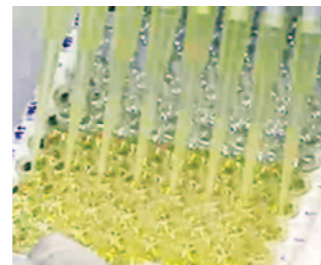
アミンファーマ研究所は、起業後も千葉大学と積極的に共同研究を推進し、国等の大型研究助成事業の獲得につながっています。血液だけでなく、尿での検査も可能とするべく、現在も産学連携研究を積極的に進めています。産学官連携の優れた取り組み事例であることが評価されて、第12回（平成26年度）産学官連携功労者表彰・経済産業大臣賞を受賞いたしました。また、平成28年には神奈川県「ME-BYO BRAND」（未病産業関連の優れた商品・サービス）に認定されました。



検査は血液のみ



血液からリスク値を分析



リスク結果の精度は約85%

1 産学共同研究の成果を基に起業

京葉プラントエンジニアリング株式会社、日環科学株式会社等と本学との好熱性微生物に関する産学共同研究の成果を実用化するため、平成25年1月に起業されました。動物飼料への事業化に成功し、『ノンメタポーク』ブランドの新しい豚肉開発に成功しました。現在第一ホテル両国や東武ストアなどに採用・展開されて、事業規模を拡大中です。



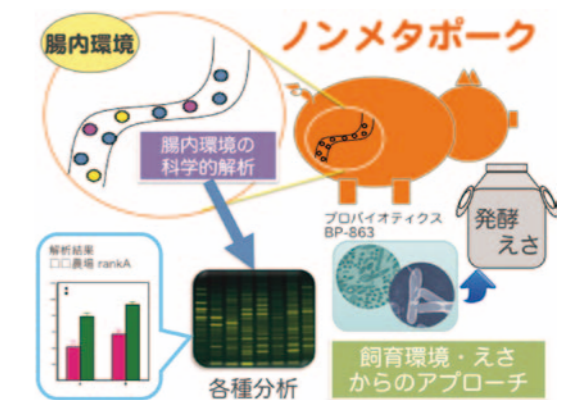
「ノンメタポーク」としてブランド化



新しい豚肉製品への展開

2 大学との共同研究を積極的に推進

動物飼料への事業化だけでなく、ヒトの健康へ寄与するべく、起業後も本学を含め多くの大学等と産学共同研究を推進しています。サーマスの最先端の取り組みについては、NHK『あさイチ』や日経トレンディ11月号にも採り上げられるなど、注目を集めています。



新規プロバイオティクスの発見と飼料への応用

血液検査で 脳梗塞のリスクがわかります
世界で初めての脳梗塞リスクマーカー

<http://www.amine-pharma.com>

お近くの医療機関で簡単受診！詳しくはHPをご覧ください

株式会社 アミンファーマ研究所

Non-Meta Pork

ムダな脂肪が少なく、さっぱり!!
一般豚よりビタミンB1が豊富☆

千葉大学が産学連携で開発した、
おいしくてヘルシーな豚肉

千葉大学発ベンチャー
株式会社サーマス

1 千葉大学との共同研究により製品化

農業生産法人株式会社理想郷/株式会社向後米穀は、「ちばぎん・研究開発助成制度」に「高食味な米の栽培に有効な有機肥料の設計と栽培環境の研究開発」として採択を受け、2013年に米の食味改善のための新規有機肥料の開発を目的として、同社が試作した「米ぬかを原料とする有機肥料」を使って、千葉大学大学院園芸学研究所土壌学研究室の犬伏和之教授と共同研究を開始しました。この共同研究の結果、肥料のポカシ（熟成度）などを最適化し米の味度値を向上させることができました。

その結果、共同研究の成果を活用して生産した「ミルキークイーン」が第15回米・食味分析鑑定コンクールで千葉県産米の中で最高得点を獲得し、すし米コンテスト国際大会第1回、第2回で連続して“特Aランク賞”を受賞するなど成果を上げました。



第15回米・食味分析鑑定コンクールにおいて千葉県産米で最高得点を獲得したミルキークイーン



第1回、第2回すし米コンテスト国際大会“特Aランク賞”を受賞

2 その後も改良を重ね成果を上げる研究開発

2014年度には、「ちば農工商連携事業支援基金」による助成事業で「米ぬか有機肥料の研究開発及び高食味な農作物の栽培」事業として採択を受け、犬伏教授のご指導のもと、さらに改良を続け、2015年には日本政策金融公庫千葉支店から、千葉大学との連携協定による融資第1号として1,000万円超の融資も受けました。これにより施肥量・施肥期を最適化し食味と収穫量を向上させることができました。また、千葉大学園芸学部の職員・学生の協力を得て官能試験も実施しました。このように着々と成果を上げた結果、同社の「ミルキークイーン」の売り上げは、順調に伸びています。

1 人工股関節全置換術における課題

股関節は、関節に加わる力が下肢では最も大きい部分であり、股関節が変形すると、股関節に疼痛を生じ、また、歩行障害のために生活の質が損なわれます。人工股関節全置換術は、変形した股関節を人工のインプラントに置き換える手術です。日本では、人工股関節全置換術は、患者が側臥位（横向きに寝た状態）で行う後方法や側方法が主流ですが、仰臥位（仰向けに寝た状態）で行う前方法は、患者にとって身体の負担が少なく、術後の痛みも軽く、回復も早いと注目を浴びています。

2 産学共同研究によるモバイル下肢牽引手術台

千葉大学大学院医学研究院の中村順一助教は、2012年頃から下肢牽引手術台を用いた前方法による人工股関節全置換術のメリットに着目して、この術式に取り組み、2013年11月から、サージカルアライアンス株式会社と共同で、前方法による人工股関節全置換術に適したモバイル（携帯型）下肢牽引手術台「LECURE®」（ルキュア）の開発を行いました。

LECURE®を用いた前方法による人工股関節全置換術では、手術時間の短縮、出血量の減少が期待できます。LECURE®は、医療機器製造販売届も提出されており、今後数年で幅広い医療機関に普及させることを目指しています。



モバイル下肢牽引手術台「LECURE®」



安心安全で美味しいお米作りにより地域を活性化するとともに、農作物を作る喜びを広め、消費者の声が生産者に聞こえる取り組みを進めております。

【ネット通販又は下記等でご購入できます。】
<http://kougou.shop-pro.jp/?pid=50549428>
 ・(株)三越伊勢丹フードサービス「クイーンズ伊勢丹」
 ・小田急商事株式会社「odakyu OX」
 ・横芝光町ふるさと納税品

農業生産法人
理想郷
 株式会社 向後米穀

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川526
 E-mail: info@kougou.net
 TEL: 0479-84-0505 FAX: 0479-84-1996
 ※理想郷は、向後米穀の生産法人部門の関連会社です。

http://s-ajp 詳しくはHPをご覧ください

千葉大学SEEDS基金は、チャレンジを支え、人を育てる基金です

創設・概要

千葉大学は、平成18年にSEEDS基金を創設し、多くの皆様からご協力いただき、平成23年度より事業を開始しました。我が国の財政状況が厳しい中、国の国立大学運営費交付金予算額は、法人化された平成16年度と比べると大きく減少して千葉大学においても多様な財源を確保していく必要があります。千葉大学SEEDS基金が大学運営において果たす役割は、今後皆さまからいただいた寄附金は、本学の教育研究活動等に大切に活用しています。

います。ますます重要となります。

千葉大学SEEDS(=無限の生命力を象徴する種子)基金は、以下の事業を支援します。

- ① 学生の生活環境の整備
- ② 教育研究環境の整備
- ③ 学生への奨学金等の経済支援
- ④ 国際交流事業の推進
- ⑤ 社会連携活動への支援
- ⑥ その他特に必要と認められる事業

1

学生への奨学金等の経済支援³

学術研究学生表彰により奨学金を受けた学生からのお礼のメッセージ

教育学部4年次学生(平成28年3月当時)

私は、学部生としての4年間、千葉大学教育学部(英語科)にて、英語科教育のあり方や第二言語習得理論について学んでまいりました。……(中略)……そしていつからか、「この分野の研究を通して日本の英語科教育に貢献したい、そのために、より一層勉学に励み、研究を続けていきたい」という気持ちが生まれ、大学院で学ぶことを夢見るようになりました。修士課程における学費などの経済的な負担を考慮し、一時は進学を迷ったこともございましたが、自らの夢を叶えるために、自分なりの努力をして進学する決意を固めました。学費確保に対する不安もある中、このような形でご支援いただけますことは、夢の実現へ



向けての更なる後押しとなっております。

今後は、奨学生としてご支援いただいているという感謝の気持ちと自覚を胸に、真摯に勉学に励み、自らの携わる研究分野の発展に貢献できるような研究者を目指して精進いたします。また、千葉大学の更なる発展に微力ながらも寄与できるような人間になれるよう、精一杯努めさせていただきます。本当にありがとうございました。

皆様からのご寄附により、平成28年度から支援を拡大いたしました!

・経済的に困窮かつ優秀な成績を修めている学生・大学院生に対する奨学金の支給や留学支援の奨学金の支給

・家計急変学生への奨学金の支給

熊本地震で被災した学生に迅速な支援を行うことができました



奨学金・支援金の給付

1,315万円

(平成28年3月末)

2

国際交流事業の推進⁴

大学院学生等の海外渡航支援プログラムにより渡航した学生からのお礼のメッセージ

工学研究科博士後期課程1年次学生(平成28年9月当時)

本プログラムのご支援により、米国ニューヨークでの共同研究及びワシントンでの学会発表を行うことができました。今後は、今回の渡航により得られたデータをブラッシュアップし、具体的な成果物としての学会発表や論文投稿を行っていきたく考えています。このような貴重な機会をくださりまして、ありがとうございました。



千葉大学において、成果報告をする学生

海外渡航の支援

約3,700万円

約340名の学生の海外渡航を支援しました(平成28年3月末)

3

教育研究環境の整備²



学生選書の設置

235万円

学生が購入を希望する学業に関する書籍などを毎年図書館に設置しています(平成28年3月末)

総合学生支援センター

1億円

学生のコミュニティ支援や、キャリアアップ支援など、学生の自律的で総合的な人材育成を行っています(平成25年3月竣工)



法人様からのご寄附

全額損金算入が可能です

次世代につなぐイノベーションとテクノロジーのために

未来の種を蒔く

・千葉大学SEEDS基金
SEEDS = 無限の生命力を象徴する種子

Webページより寄附の申し込みの手続きができます。詳しくは → <http://kikin.chiba-u.ac.jp/>



1 2016年4月 周産母子センター始動

このたび「周産母子センター」として、重症なお母さんや胎児を管理するMFICU（母体胎児集中治療室）を6床新設しました。また、より重症の新生児を受け入れることができるようNICU（新生児集中治療室）とGCU（継続保育室）を合計15床増床し、診断技術や治療の高度化に対応した施設としてスタートしました。

一組でも多くの母子を救うため、周産期母性科、小児科、小児外科を中心に大学病院ならではの高度な医療を提供するとともに、周産期医療の研究や医師など医療スタッフの育成を進め、周産期医療の進歩に貢献してまいります。



画家の伊藤香奈さん（千葉大学大学院卒）が壁に描いてくださったイラストが部屋を訪れる医療者や患者さんに癒しを与えています



2 万が一のときもDMATを中心に地域医療を支えます



DMAT（ディーマット）は、専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調達員の約5名で1チームを編成する医療チームです。災害が起きたら、厚生労働省のDMAT事務局や千葉県からの派遣要請をもとに出動します。

当院にはDMATが2チームあり、東日本大震災や2015年の関東・東北豪雨時には、災害発生直後より出動して、被災地で医療活動や患者搬送などを行いました。

また2016年に発生した熊本地震でもDMAT隊員数名が災害医療コーディネーターサポートチームとして現地で活動しました。千葉県の災害医療本部との連携においても「地域災害拠点病院DMAT」として中心的役割を担っています。

2015年10月、千葉市中央消防署との合同訓練では、経験豊富なDMAT隊員がインストラクターとして訓練を企画・主導。実際に救急車で約30人の模擬患者を搬送し、災害・事故現場から多くの傷病者を受け入れる流れを確認。傷病の緊急性などで分類し、治療の優先順位を決める「トリアージ」の手順も検証しました。

様々な事態を想定し、どんな状況でも対応ができるよう訓練は常に真剣に取り組んでいます



3 壁と天井の映像でリラックス MRI検査室と血管造影室に導入

患者さんに少しでもリラックスしていただき、安定した検査・治療を行うため、MRI検査室2室と、血管造影室1室にAmbient Experience（アンビエント エクスペリエンス）を導入しています。

3室に導入しているのは世界的にも珍しく、閉所恐怖症でこれまでMRIを受けられなかった方でも「閉塞感がなくて大丈夫だった」など安心して検査を受けられます。



装置の中から水中、空、風景など選択したテーマの映像をみることができま



子どもが怖がらないよう事前説明を行うため、ミニチュアMRIを設置



MRI検査室

4 セントラルスポーツと連携した「運動教室」がスタート



運動教室の様子

生活習慣病と呼ばれる糖尿病・高血圧・脂質異常症・虚血性心疾患などの発生要因の一つに、運動不足が挙げられています。そこで2015年10月より、セントラルスポーツ株式会社と連携した運動教室がスタートしました。

運動教室は医師による問診の後、セントラルスポーツの「生活習慣予防&改善運動プログラム」をもとに、姿勢チェック、深呼吸エクササイズ、筋力トレーニングなどの運動療法が行われます。1時間のプログラム終了後には、自宅でも運動ができるように説明用紙が配布されます。

これからも大学病院ならではの高度な医療と運動を融合し、疾病の増悪予防、介護予防の新たな手法・プログラムを創出して、健康長寿社会の実現を目指します。

5 難病の患者さんに有効な治療法を届けたい

クロウ・フカセ（POEMS）症候群は末梢神経障害、胸腹水・浮腫、腎不全など様々な症状が現れる難治疾患です。北は北海道から南は九州まで、日本で最多のクロウ・フカセ症候群の患者さんが千葉大学病院で治療を受けています。

当院では、サリドマイドという薬剤に着目し、治療の有効性と安全性を証明して、効果的な治療法を提供するため、臨床試験（医師主導治験）を行っています。クロウ・フカセ症候群の新しい治療法を待ち望んでいる患者さんのため、公的に承認され保険適用に向けた活動を推進しています。



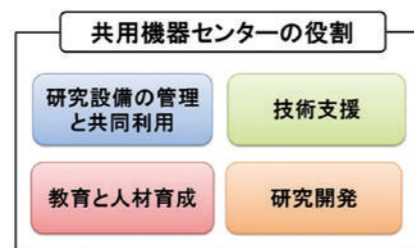
神経内科 教授 桑原聡
「今回の臨床試験でサリドマイドの有効性が示され、治療の選択肢が増えることが期待されます」



（左から）神経内科助教 関口縁、講師 三澤園子、臨床試験部薬剤師 片山加奈子

1 共用機器センターとは？

大型分析機器の集中管理などを行う共同教育研究施設です。学内外に向けた研究設備の管理と共同利用を行う他、設備を有効利用するための教育と人材育成や技術支援、分析に関する研究開発を行っています。



2 研究設備の管理と共同利用

共用機器センターでは、主に化学系大型分析機器の共同利用を行っており、学内だけでなく学外からの学術利用（大学等）や一般利用（企業等）を一定の利用料金で受け付けています。利用者自身が実験を行う「利用者測定」の他、一部の機器では、担当スタッフによる「依頼測定」を受け付けています。

共用機器センターは、分子科学研究所が主管する「大学連携研究設備ネットワーク」に参加しており、Web上で機器の予約や課金状況の確認ができます。同ネットワークは大学だけでなく一般企業も参加可能です。



3 教育と人材育成

学内外の設備利用者向けに、担当スタッフや学内外の専門家による技術講習会やセミナーを行っています。またセンターの機器によって得られた研究成果の報告会なども開催しています。



4 利用希望のお問い合わせ先

千葉大学 共用機器センター

TEL : 043-290-3810 E-mail : cai-network@chiba-u.jp

URL : <http://www.cac.chiba-u.ac.jp/>

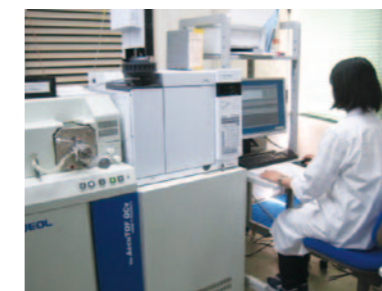
利用料金については、機器の種類、利用形態、利用時間、件数、オプション使用の有無などにより異なります。詳しくは共用機器センターにお問い合わせ下さい。

学外利用可能な主な共用機器（学内部局と共同管理の機器を含む）

機器名	用途
核磁気共鳴装置	核磁気共鳴現象（NMR）の観測による、分子の構造解析や分子挙動の観測など。
電子スピン共鳴装置	電子スピン共鳴現象（ESR）の観測による、常磁性反応中間体の追跡や半導体の物性評価など。
質量分析装置	試料の質量（分子量）の観測による、構造解析や微量物質の検出など。
単結晶／粉末X線回折装置	X線の回折像を測定することによる、単結晶の構造解析や化合物の同定、構造変化の観測など。
元素分析装置	試料中の炭素、水素、窒素などの組成比を測定することによる、有機化合物の構造決定や純度決定など。
透過型電子顕微鏡	薄層試料を透過した電子の干渉像を検出することによる、極微小領域（オングストロームサイズ）の観察。
走査型電子顕微鏡	試料表面に電子ビームを照射し、二次電子等を検出することによる、微小領域（マイクロメートルサイズ）の観察。
顕微分光光度計	微小領域で紫外～近赤外光の吸収スペクトルを測定することによる、不均一試料の同定や物性評価など。
フーリエ変換赤外分光光度計	赤外線吸収スペクトルの測定による、有機化合物の同定や構造解析など。
紫外可視近赤外分光光度計	紫外～近赤外領域の吸収スペクトルの測定による、化合物の同定や光物性の評価など。
発光量子収率測定装置	発光量子収率（吸収された光子のうち発光として放出される光子の割合）の測定による、発光材料の性能評価など。
ゼータ電位・粒径測定装置	コロイド粒子の粒径やゼータ電位測定による、試料（ナノ粒子または固体表面）の物性評価など。



核磁気共鳴装置



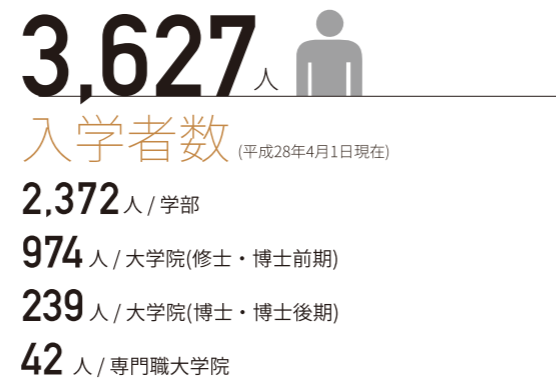
質量分析装置



透過型電子顕微鏡



X線回折装置



1. ファイナンシャルハイライト

千葉大学は、平成16年度の法人化以降、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、創造的な教育・研究活動を実践してまいりました。

一方で、平成28年度からの第3期中期目標期間においては、機能強化の方向性に応じ運営費交付金が重点配分される仕組みが新たに導入されたところであり、千葉大学は、「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を機能強化の中核とする国立大学」として位置付けられ、今後、学長のリーダーシップのもとで機能強化を一層進めていくとともに世界水準の教育研究を目指してまいります。このような厳しい競争環境下において、安定的な大学運営を行うためには、更なる外部資金の獲得により、財務基盤の充実に努めていく必要があります。これらの状況を踏まえ、財務データをはじめとする大学情報の公表の重要性は一層高まっており、本学としても積極的な情報発信に取り組んでいるところです。



理事（総務担当・事務局長）
猿渡政範

今回、お届けいたします「CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2016」は、財務状況および最新のトピックスに加え、共同研究などの産学連携にかかる取組についても記載し、身近で分かりやすい報告書となるよう心がけ作成いたしました。

本レポートを通じて、本学の活動状況をご理解いただき、皆様方からのますますのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(単位：百万円)

	H26	H27	増減（前年度比）
資 産	233,003	224,133	△8,870
負 債	62,867	56,877	△5,990
純 資 産	170,136	167,256	△2,880
費 用	67,886	67,882	△3
収 益	66,964	67,060	96
運営費交付金収益	17,402	17,770	368
学生納付金収益	8,222	8,327	106
附属病院収益	29,903	30,610	707
寄附金収益	1,374	1,259	△115
受託研究等収益	2,508	3,040	532
受託研究収益	1,972	2,440	468
共同研究収益	536	600	64
その他の収益	7,555	6,053	△1,502
当期総利益（損失）	△922	△822	100

注) 本レポートでは、単位未満を四捨五入しているため、計・差引が一致しない場合があります。詳細については、「国立大学法人会計の仕組み」以降を参照ください。

1 国立大学法人と民間企業の違い

国立大学法人は、公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず、独立採算性を前提としない等の独立行政法人の特性に加え、主たる業務内容が教育・研究・診療である等の特性を持っています。そのため、通常の業務運営を行った場合には、基本的には利益は生じず、損益が均衡する仕組みとなっています。ただし、病院収入の取扱などについては、利益の獲得という面が一定程度考慮される仕組みとなっています。

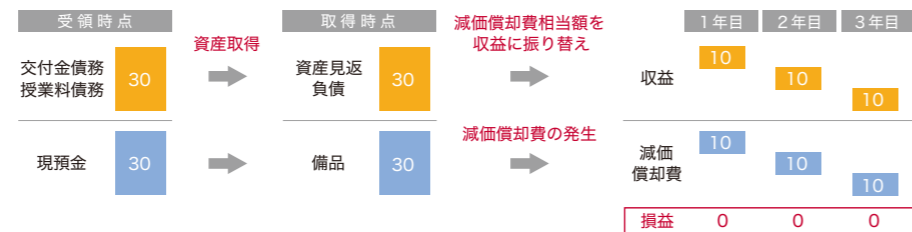
区分	活動の目的	利益の獲得
民間企業	・ステークホルダーの利益最大化／・企業価値最大化	・目的とする
国立大学	・公的性格を有する教育研究診療の実施	・目的としない

2 国立大学法人会計特有の仕組み（損益均衡）

運営費交付金や授業料を受領したときは、行うべき業務として債務認識（負債に計上）し、行うべき業務を実施すると、その相当額を収益化の基準に従って収益化する仕組みとなっています。

また、一般的に固定資産を運営費交付金などで取得した場合、取得原価相当額を資産見返負債として計上することで、収益計上を一旦留保します。その後、留保された金額から減価償却費相当額を毎年収益に振り替えていきます。

このように、国立大学法人は、通常の業務を行えば損益が均衡するように制度設計されています。



3 現金の裏付けのない帳簿上の利益

(1) 資産の取得に充てた病院収入と減価償却費の差から生じる利益・損失

附属病院においては診療業務を実施したことにより病院収益が計上される（対価を伴う業務による収入）ため、企業会計と同様の会計処理を行います。

病院収入（診療報酬）を受領したときは、そのまま収益となるため、病院収入により資産を取得した場合は、現金の裏付けのない帳簿上の利益や損失が発生します。「2 国立大学法人会計特有の仕組み（損益均衡）」で紹介した資産見返負債を計上することはありません。

以下の例では、1年目に利益が発生し、2～3年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の利益又は損失となります。



(2) 借入金の返済期間と減価償却期間のずれから生じる利益・損失

附属病院の借入金は病院収入により返済しますので、病院収益の一部が毎年の返済に充てられることになります。他方で、建物等の固定資産を取得した場合、毎年減価償却費が発生します。

借入金の返済期間と、借入金により建設した建物等の減価償却費の発生する期間が異なることから、毎年利益又は損失が生じることになります。

以下の例では、1～20年目に利益が発生し、21～30年目に損失が発生しますが、いずれも、現金の裏付けのない帳簿上の利益又は損失となります。

区分	1年	2年	3年	4年	5年	16年	17年	18年	19年	20年
借入金の返済に充てる病院収益	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
減価償却費	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損益（利益）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

借入金(60) : 1～20年目に毎年均等返済 減価償却費(60) : 1～30年目に毎年定額償却	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	累計
											60
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	60
	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	±0

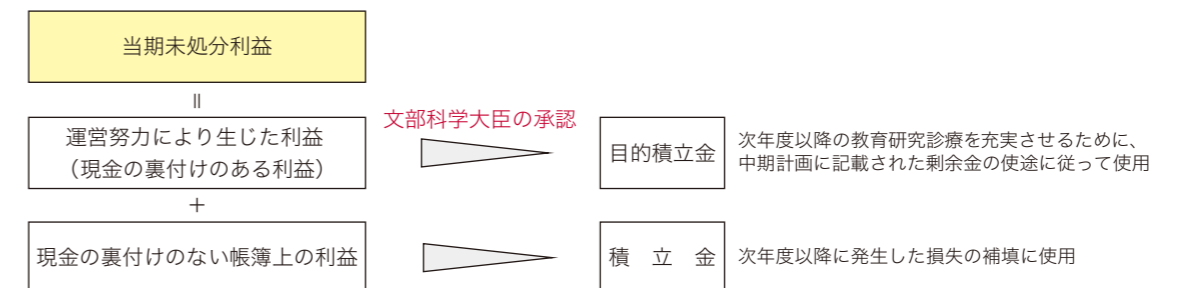
4 国立大学法人の利益処分

(1) 通常の事業年度の利益処分

国立大学法人には、民間企業における株主のような営利目的の資本主が存在しませんので、利益を配分等として外部に分配することはありません。また、国立大学法人の利益は、「運営努力により生じた利益」と、「現金の裏付けのない帳簿上の利益」の2つに大別されます。

「運営努力により生じた利益」とは、業務の効率化による費用削減や積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。この利益は、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣に剰余金の使途の承認申請を行い、承認を受けた金額は次年度以降の教育研究診療を充実させるために、中期計画に記載された剰余金の使途に従って使用することが認められています。

「現金の裏付けのない帳簿上の利益」とは、先に例をお示したように、収益の発生年度が費用の発生年度より先行することにより生じる利益であり、次年度以降に発生した損失の補填に使用することとなります。



(2) 中期目標期間の最終事業年度の利益処分

中期目標期間の最終事業年度の利益処分は、通常の事業年度と異なります。最終事業年度の未処分利益や前中期目標期間繰越積立金の残高をすべて積立金として整理し、積立金の処分を行います。

当該積立金については、文部科学大臣の承認を得たものに限り「次期中期目標期間繰越積立金」として次期中期計画に定めた積立金の使途に従って使用することができます。それ以外は国庫納付金として国へ返還します。

平成27事業年度は、千葉大学が法人化して12年目となり、第2期中期目標期間の最終年度となります

3. 貸借対照表の概要

貸借対照表は大学の財政状況を明らかにするものです。
大学が所有する資産（教育・研究・診療活動等に必要な資源）と、その調達方法である負債（他人資本）と純資産（自己資本）が示されています。

資産の部		負債の部	
固定資産		資産見返負債	170 (179)
土地	1,302 (1,303)	借入金	226 (231)
建物等 ※1	595 (612)	長期未払金	18 (26)
備品 ※1	105 (130)	寄附金債務	33 (32)
図書	54 (54)	未払金 ※4	89 (127)
建設仮勘定 ※2	1 (7)	その他	33 (34)
投資有価証券	15 (15)	負債合計	569 (629)
その他	8 (6)		
流動資産		純資産の部	
現金及び預金	45 (48)	資本金	1,508 (1,508)
未収入金	66 (74)	資本剰余金	113 (121)
有価証券 ※3	47 (77)	利益剰余金 ※5	59 (81)
棚卸資産	4 (4)	当期末処分利益 (当期末処理損失)	△8 (△9)
その他	1 (1)	純資産合計	1,673 (1,701)
資産合計	2,241 (2,330)	負債・純資産合計	2,241 (2,330)

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合があります。 () は平成26事業年度

- 学生寄宿舍、附属病院みなみ棟など建物等の工事・改修を行った一方で、既存の建物・備品等の老朽化に伴う減価償却が進行しています。(※1)
- 上記建物等の竣工に伴い建設仮勘定が減少しています。(※2)
- 資金運用の減少により有価証券が減少しています。(※3)
- 3月期における固定資産取得の減少等により未払金が減少しています。(※4)
- 学生寄宿舍整備等に伴う目的積立金の使用及び前年度の損失の処理により利益剰余金が減少しており、残額59億円については、法人化当初より積み上げられた現金の裏付けのない帳簿上の利益となります。(※5)



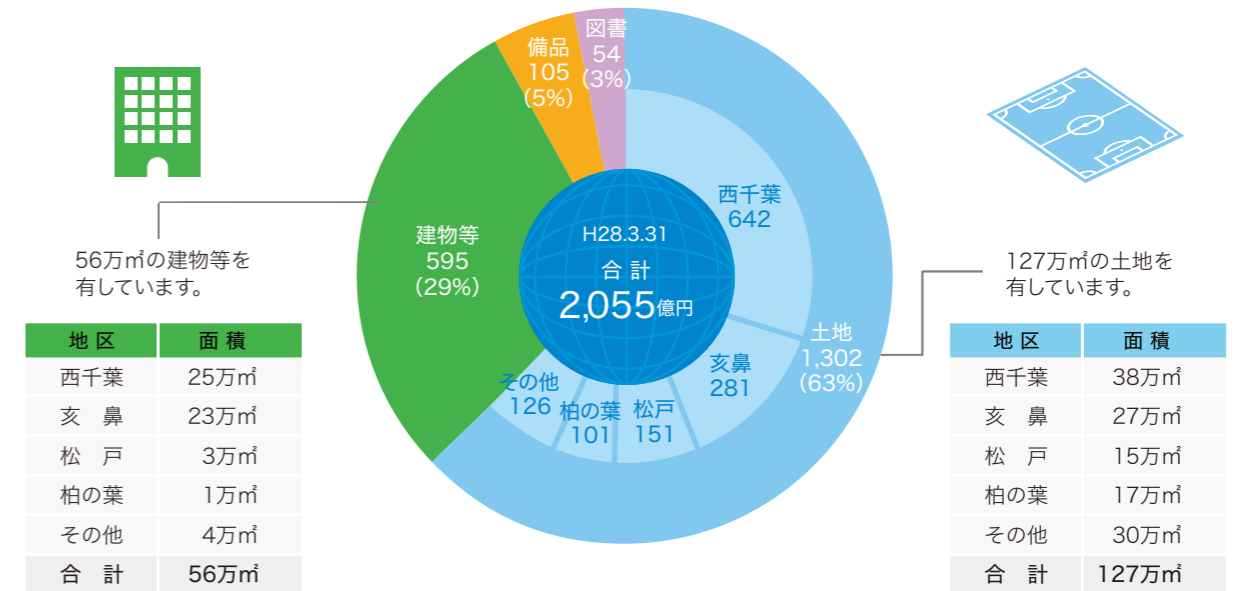
学生寄宿舍（薫風寮）

周産母子センター（附属病院みなみ棟）

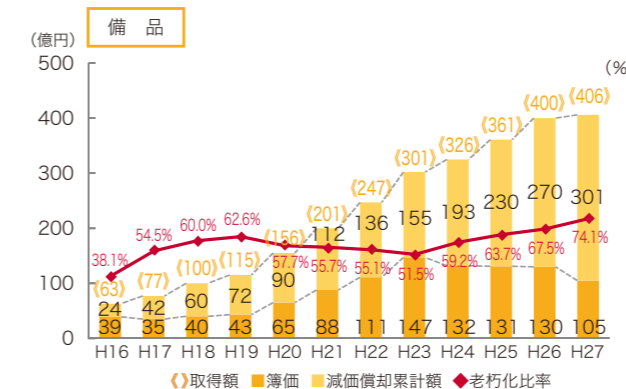
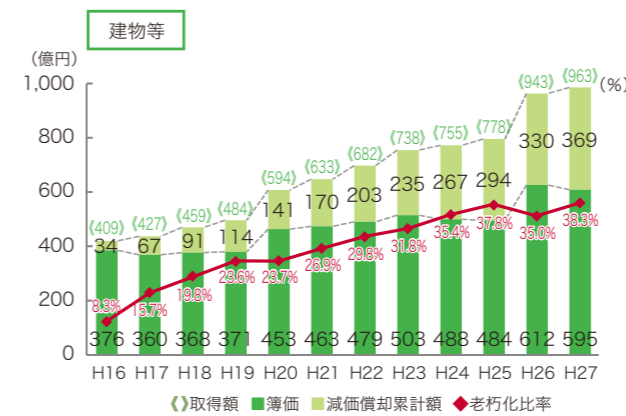


研究者交流施設（松韻会館）

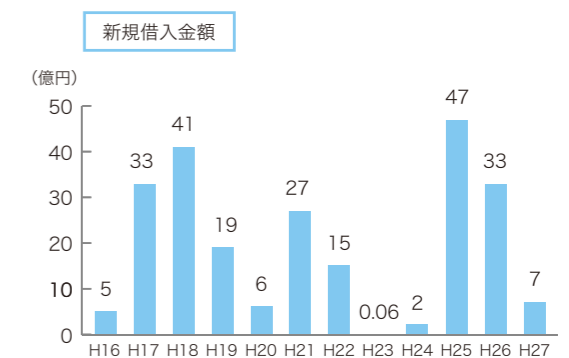
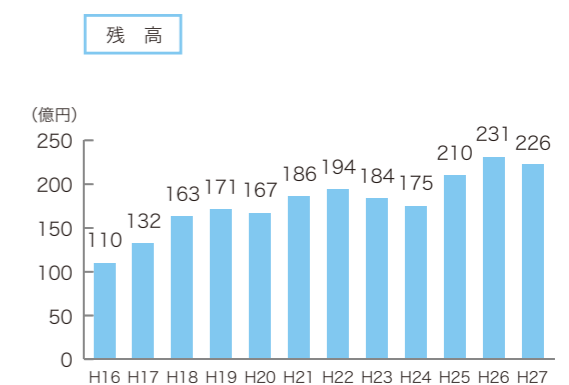
主要な有形固定資産の内訳



施設等取得額・老朽化比率の年度別推移



借入金の年度別推移



4. 損益計算書の概要

損益計算書は大学の運営状況を明らかにするものです。
事業活動を行うためにかかった費用（教育経費、研究経費、診療経費等）とそれに充当した収益（運営費交付金収益、学生納付金収益、附属病院収益等）を示しています。

経常費用		経常収益	
教育経費 ※1	32 (34)	運営費交付金収益	178 (174)
研究経費 ※1	42 (47)	学生納付金収益	83 (82)
診療経費	210 (210)	附属病院収益 ※3	306 (299)
教育研究支援経費	11 (11)	外部資金	53 (52)
受託研究費等	30 (26)	機関補助金	19 (25)
人件費 ※2	335 (326)	その他	28 (28)
一般管理費	14 (14)		
その他	3 (3)		
経常費用合計	677 (672)	経常収益合計	667 (661)
臨時損失	2 (6)	臨時利益	3 (1)
		目的積立金取崩等	1 (8)
計	679 (679)	計	671 (670)

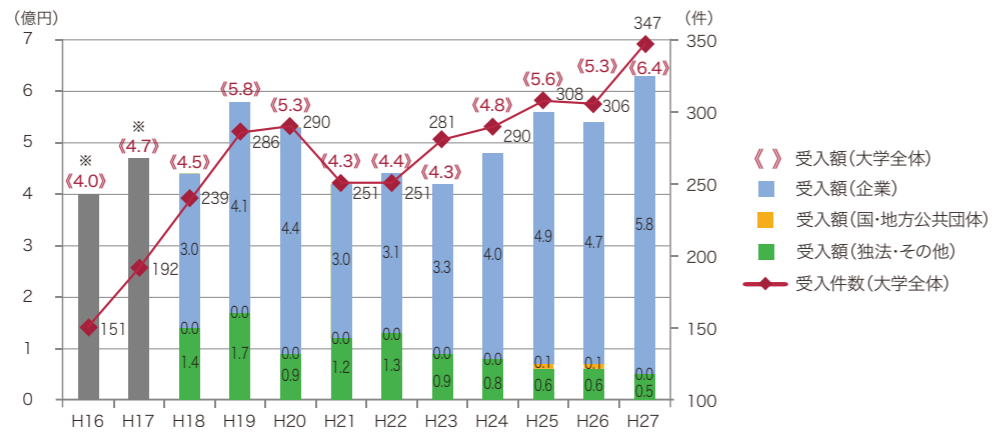
当期総利益（損失） △8 (△9)

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合があります。

() は平成26事業年度

- 運営費交付金以外の国等から措置された補助金交付額の減少等により、教育経費及び研究経費が減少しています。(※1)
- 人件費は、年俸制の実施、地域手当及び法定福利費の上昇や病院収入による看護師等の雇用の増加により増えています。(※2)
- 附属病院収益は、みなみ棟改修による稼働病床数の減少等により入院診療収益が減少したものの、外来患者数増加等による外来診療収益の増加により増えています。(※3)

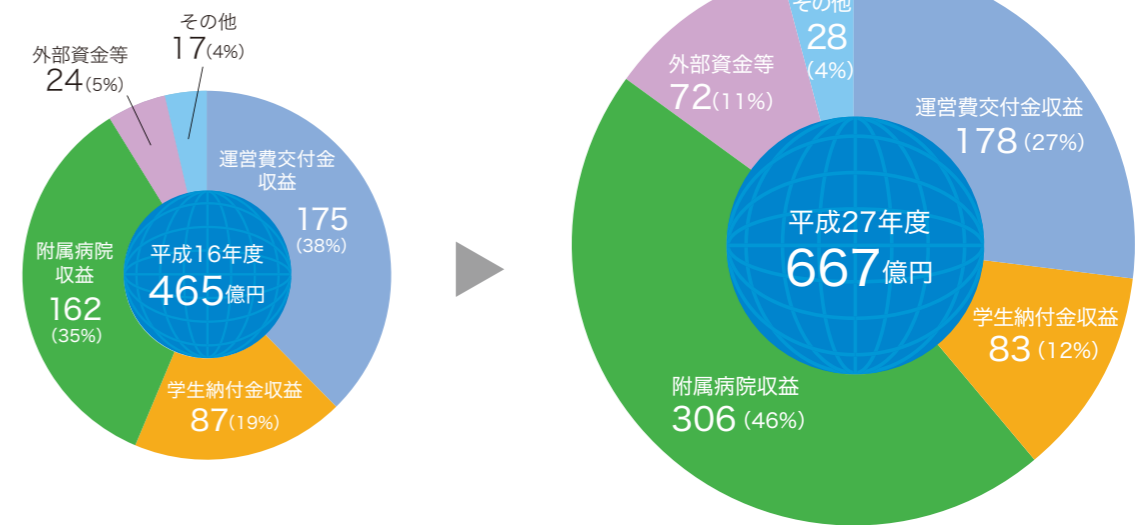
【参考】共同研究受入状況の推移



- 千葉大学では産学連携を積極的に推進しており、共同研究の受入件数は平成16年度に比べて196件増加しています。

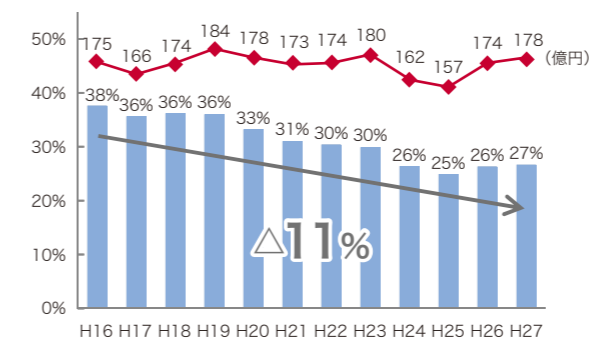
※平成16年度及び平成17年度は受入額の内訳が不明なため、総額のみ表示しています。

主要な経常収益（シェア）の推移

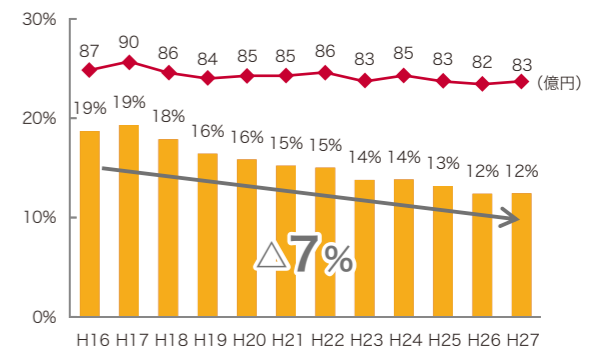


平成16年度（国立大学法人化の初年度）と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。

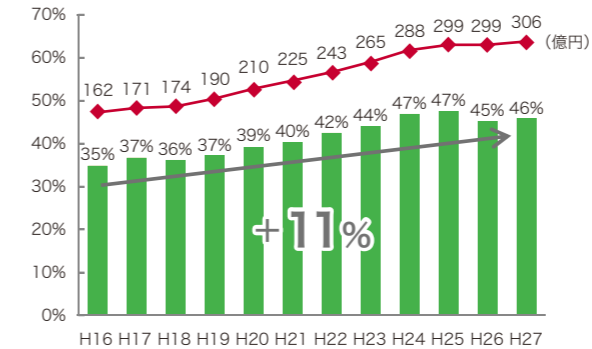
運営費交付金収益



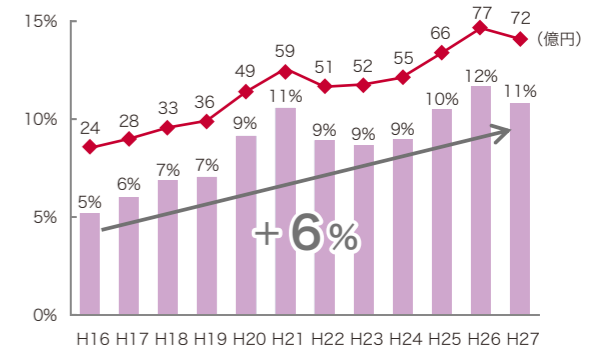
学生納付金収益



附属病院収益



外部資金等



5. 財務指標

●財務指標とは
 財務指標とは財政状態や運営状況を財務諸表の計数を用いて計算し数値化したものです。本学では、今後の大学運営の改善や取組の参考とするために、平成27事業年度における大規模総合大学等と比較分析を行っています。

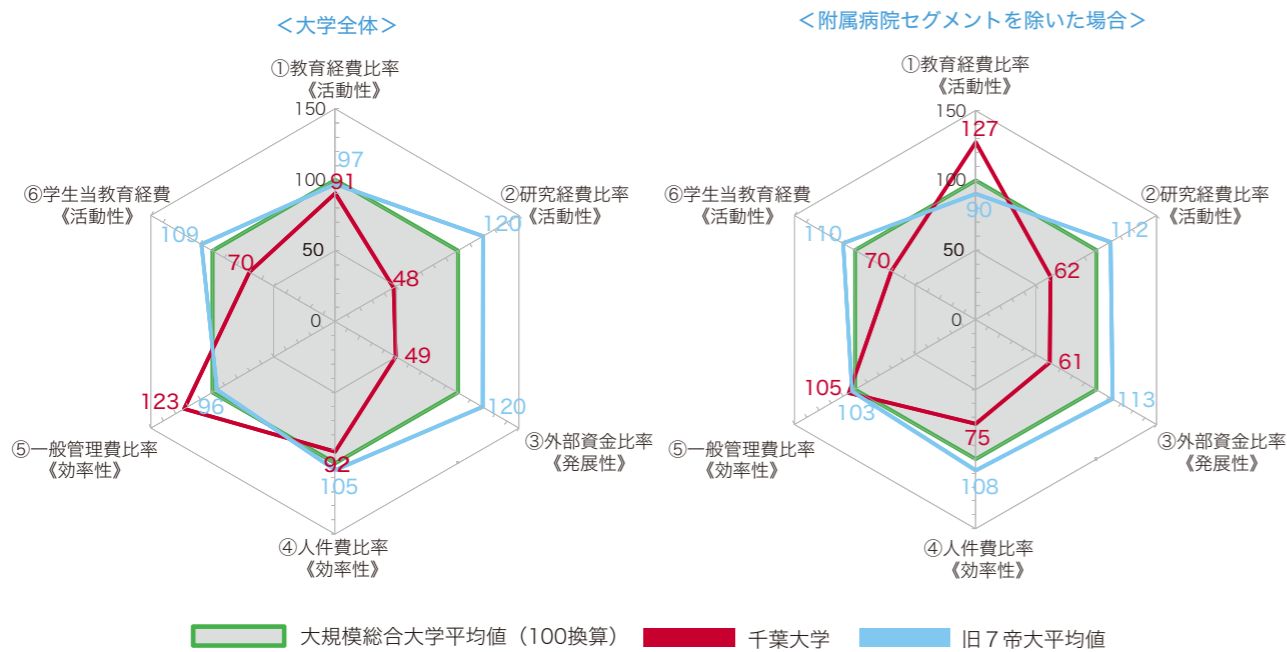
分析結果と今後の課題

- 外部資金比率については、共同研究、受託研究などの受入額の増加に伴い受託研究等収益が増加したことで、前年度より比率が上昇しておりますが、同規模大学平均と比べると劣っております。大学運営における財務基盤の充実のため、引き続き外部資金獲得に努めてまいります。
- 一般管理費比率は同規模大学平均と比べても低く良い傾向であるため、引き続き経費削減に努めてまいります。
- 人件費比率が同規模大学平均と比べて高い一方で、研究経費比率は低くなっています。限られた資源を最大限活用するため、学長のリーダーシップのもと、戦略的経費を確保したうえで、一層効果的・効率的な運営に努めてまいります。

財務指標レーダーチャート

本学と、大規模総合大学等をレーダーチャートで比較し、財務状況を分析しています。

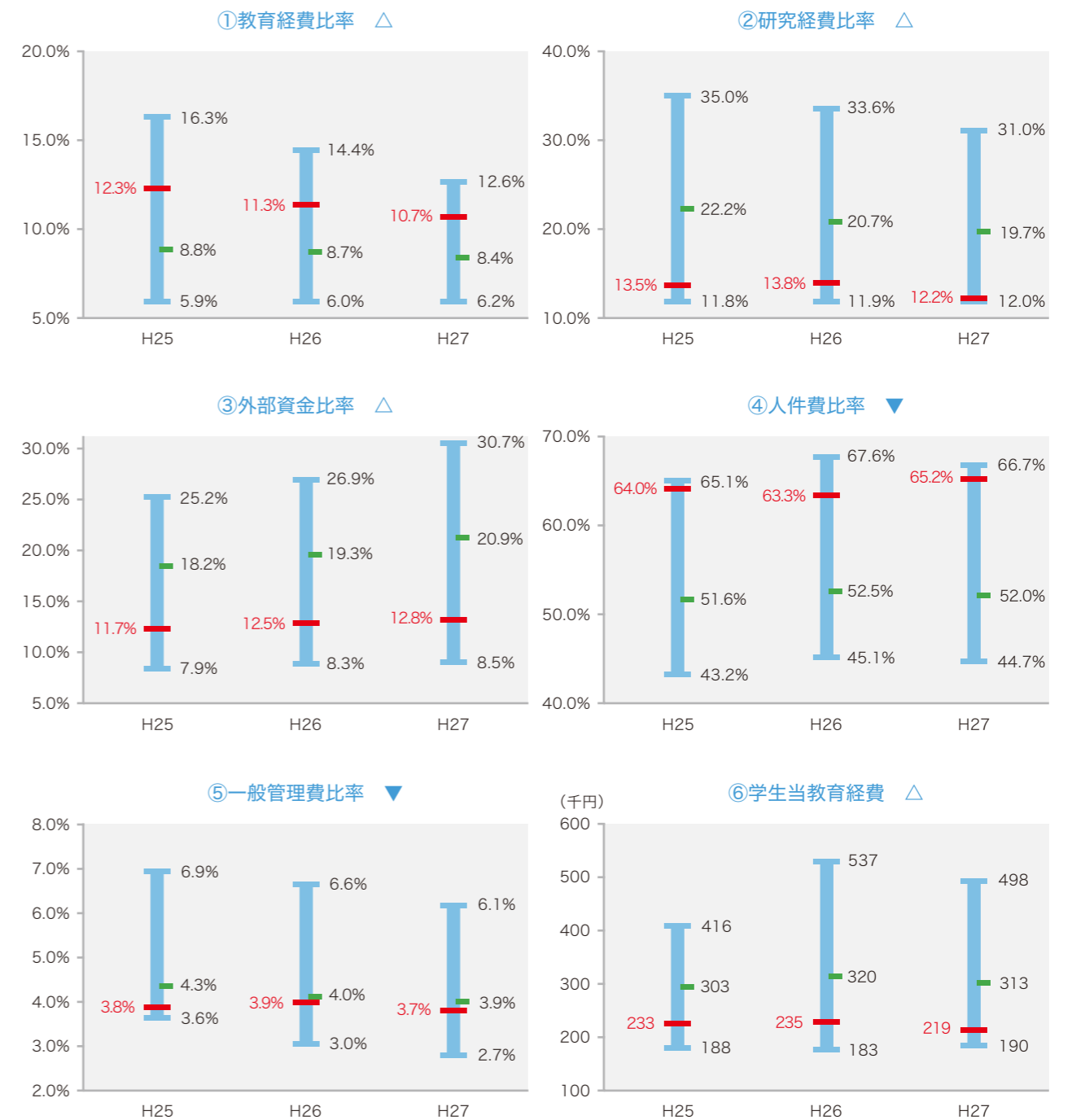
比率が低いほうが望ましいもの（人件費比率、一般管理費比率）については逆数を用いており、グラフ上はすべて外側に行くほど財務上の評価が高くなるように表示しています。



※1 大規模総合大学とは、学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の13の国立大学を指します。(北海道、東北、筑波、千葉、東京、新潟、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、九州)
 ※2 財務諸表の計数については、各大学ホームページにて公開の財務情報より算出しております。

財務指標から見た大規模総合大学との比較分析 (附属病院セグメントを除いた数値を使用)

■は千葉大学を、■は大規模総合大学平均値を示します。
 最大値・最小値は、大規模総合大学における最大値・最小値を示します。
 より高い方が望ましい指標には ▲ を、低い方が望ましい指標には ▼ を付してあります。
 各指標は、財務諸表、事業報告書等の数値に基づき算出しています。



6. セグメント情報

損益状況について（附属病院セグメントを除く）

(単位：億円)

経常費用		経常収益	
教育経費	31 (34)	運営費交付金収益	140 (140)
研究経費	36 (41)	学生納付金収益	83 (82)
教育研究支援経費	11 (11)	外部資金	44 (46)
受託研究費等	24 (23)	機関補助金	16 (21)
人件費	191 (188)	その他	21 (22)
一般管理費	11 (12)		
その他	0.06 (0.1)		
経常費用合計	304 (309)	経常収益合計	305 (311)
臨時損失	1 (4)	臨時利益	3 (0.9)
		目的積立金取崩等	0.6 (0.2)
計	305 (313)	計	309 (312)
当期総利益（損失）	3 (△2)		

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

() は平成26事業年度

国立大学法人は公共的な性格を有し、利益の獲得を目的としないため、通常の業務を行えば損益が均衡するように制度設計されています。

平成27年度の当期総利益は、附属病院セグメントを除くと約3億円ですが、そのほとんどは退職手当と年俸制導入促進費にかかる運営費交付金の未使用分であり、使途が決まっています。

附属病院セグメントの損益状況について

(単位：億円)

経常費用		経常収益	
教育経費	0.5 (0.5)	運営費交付金収益	37 (34)
研究経費	6 (6)	附属病院収益	306 (299)
診療経費	210 (210)	外部資金	9 (6)
受託研究費等	6 (3)	機関補助金	3 (5)
人件費	144 (137)	その他	7 (7)
一般管理費	3 (3)		
その他	3 (3)		
経常費用合計	373 (364)	経常収益合計	362 (350)
臨時損失	0.5 (2)	臨時利益	0.1 (0.1)
		目的積立金取崩等	- (7)
計	374 (366)	計	362 (358)
当期総利益（損失）	△12 (△8)		

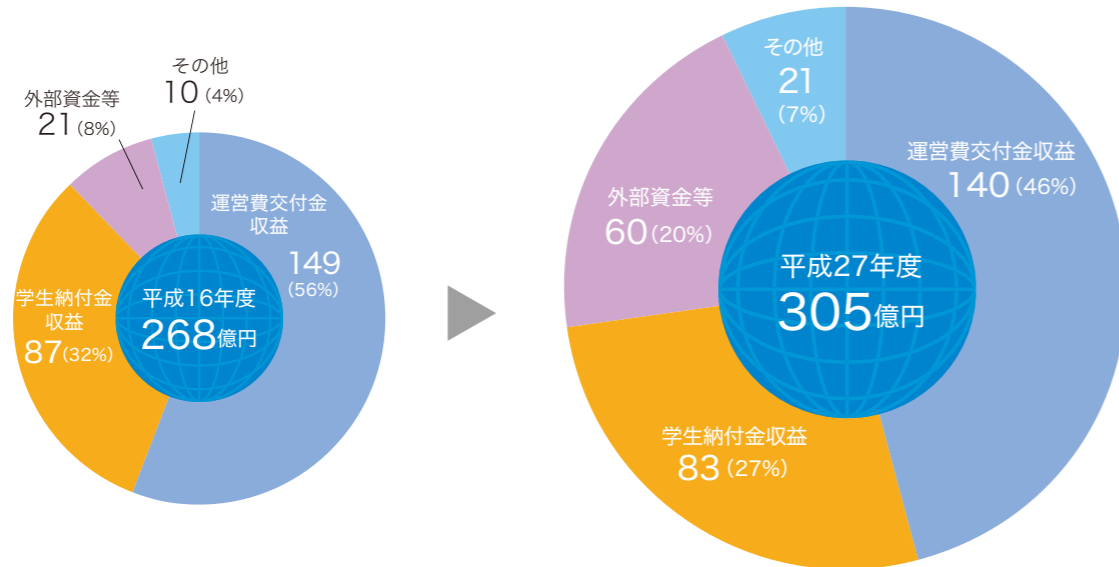
単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

() は平成26事業年度

附属病院においては、対価を伴う業務により収益が計上されるため、企業会計と同様の会計処理を行います。

平成27年度は病院再開発におけるみなみ棟改修や新規設備導入等に伴う影響により、附属病院セグメントにおいては約12億円の当期総損失となりました。

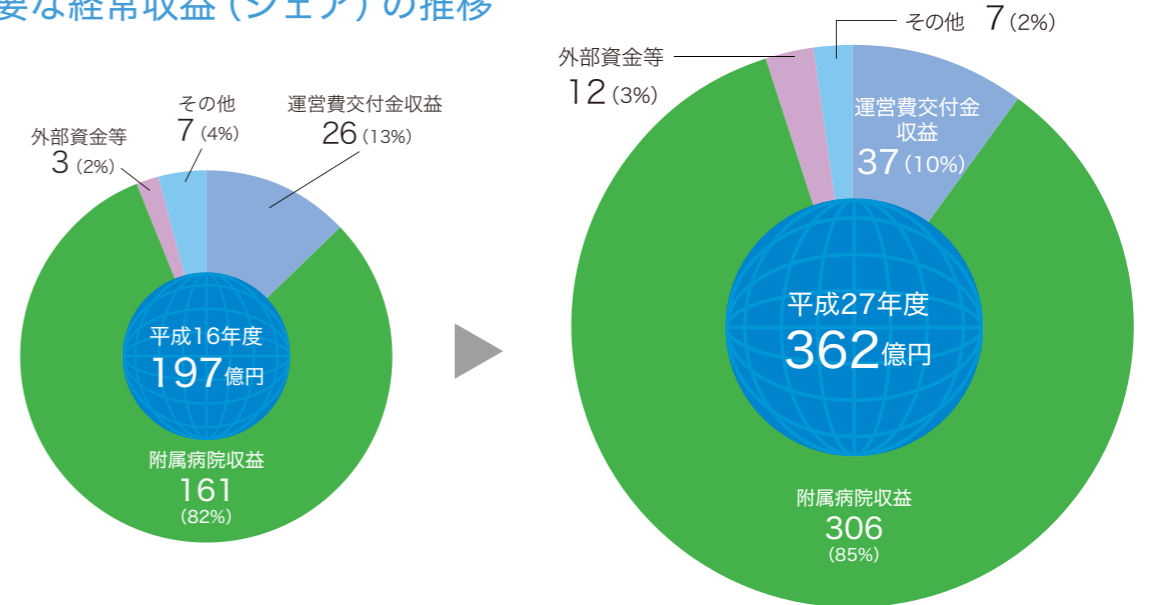
主要な経常収益（シェア）の推移



平成16年度と比べて事業規模が拡大しているにもかかわらず、運営費交付金収益や学生納付金収益は増加せず、経常収益に占めるシェアは減少しています。

一方で、受託研究・共同研究などの外部資金や、財産貸付料・講習料などのその他の収益が増加し、経常収益に占めるシェアは増加しています。

主要な経常収益（シェア）の推移



病院の機能強化と将来の地域医療のために病院再開発事業を展開してきたことにより、附属病院収益は平成16年度と比べて約1.9倍に増加しました。

7. 財務諸表等の計数推移

貸借対照表

(単位：百万円)

区分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	H27	差引H27-H26
資産の部								
固定資産	178,418	198,012	202,815	200,626	207,470	212,615	207,811	△4,804
有形固定資産	178,096	196,869	201,420	198,968	205,452	210,678	205,693	△4,985
土地	130,463	130,463	130,463	130,452	130,452	130,279	130,191	△88
土地	130,463	130,463	130,463	130,463	130,463	130,290	130,290	-
減損損失累計額	-	-	-	△11	△11	△11	△99	△88
建物	36,051	45,755	47,912	46,524	45,907	58,308	56,602	△1,706
建物	39,111	64,789	69,989	71,574	73,503	89,260	91,155	1,895
減価償却累計額	△3,059	△19,033	△22,077	△25,050	△27,596	△30,952	△34,554	△3,602
構築物	1,531	2,134	2,368	2,273	2,503	2,924	2,856	△68
構築物	1,830	3,363	3,801	3,904	4,341	4,998	5,181	183
減価償却累計額	△299	△1,228	△1,433	△1,631	△1,837	△2,074	△2,325	△251
工具器具備品	3,867	11,133	14,653	13,219	13,073	12,974	10,480	△2,494
工具器具備品	6,263	24,740	30,135	32,556	36,106	39,966	40,590	624
減価償却累計額	△2,396	△13,607	△15,481	△19,337	△23,033	△26,992	△30,111	△3,119
図書	5,397	5,367	5,364	5,358	5,367	5,389	5,361	△28
建設仮勘定	649	1,873	518	994	7,996	655	53	△602
その他の有形固定資産	137	145	142	147	154	150	150	0
無形固定資産	139	231	250	266	331	354	527	173
投資その他の資産	183	911	1,145	1,392	1,688	1,582	1,591	9
流動資産	11,275	20,035	19,420	21,683	27,235	20,388	16,322	△4,066
現金及び預金	8,036	4,701	2,793	2,595	2,980	4,761	4,512	△249
未収学生納付金収入	81	87	102	84	80	80	74	△6
未収附属病院収入	2,726	4,196	5,056	5,268	5,244	5,495	5,669	174
未収附属病院収入	3,004	4,295	5,127	5,343	5,338	5,617	5,754	137
徴収不能引当金	△278	△99	△70	△75	△94	△122	△85	37
その他の未収入金	24	1,849	226	337	1,680	1,794	896	△898
その他の流動資産	408	9,202	11,242	13,400	17,250	8,258	5,172	△3,086
資産合計	189,692	218,046	222,235	222,309	234,705	233,003	224,133	△8,870
負債の部								
固定負債	24,850	37,933	38,623	36,252	41,861	43,360	41,181	△2,179
資産見返負債	8,033	14,998	13,950	13,997	18,204	17,853	17,032	△821
長期寄附金債務	182	187	191	15	23	32	41	9
財務・経営C債務負担金	9,436	4,257	3,660	3,097	2,571	2,066	1,581	△485
長期借入金	7,196	14,117	13,606	13,274	17,307	19,846	19,685	△161
引当金	3	168	214	255	339	371	417	46
退職給付引当金	3	168	214	255	270	303	348	45
その他引当金	-	-	-	-	68	68	68	-
その他の固定負債	-	4,207	7,000	5,613	3,417	3,192	2,425	△767
流動負債	13,511	16,300	15,990	18,536	24,493	19,507	15,696	△3,811
運営費交付金債務	238	174	36	498	1,198	106	-	△106
寄附金債務	1,992	3,089	3,185	3,448	3,279	3,174	3,256	82
一年以内返済予定財務・経営C債務負担金	1,053	669	596	563	527	504	485	△19
一年以内返済予定長期借入金	3,349	336	517	574	645	724	831	107
未払金	5,167	9,792	9,200	10,391	16,276	12,602	8,765	△3,837
その他の流動負債	1,712	2,240	2,455	3,061	2,568	2,398	2,359	△39
負債合計	38,362	54,234	54,613	54,788	66,354	62,867	56,877	△5,990
純資産の部								
資本金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	150,821	-
政府出資金	150,907	150,907	150,907	150,907	150,907	150,821	150,821	-
資本剰余金	△609	6,049	8,925	8,155	8,545	12,131	11,312	△819
利益剰余金	1,033	6,857	7,791	8,459	8,899	7,185	5,124	△2,061
純資産合計	151,331	163,813	167,622	167,521	168,351	170,136	167,256	△2,880
負債純資産合計	189,692	218,046	222,235	222,309	234,705	233,003	224,133	△8,870

損益計算書

(単位：百万円)

区分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	H27	差引H27-H26
経常費用(A)	45,892	54,693	58,782	60,327	62,260	67,247	67,717	470
業務費	44,157	53,083	57,153	58,756	60,644	65,475	66,007	532
教育経費	1,636	2,148	2,553	2,884	3,435	3,411	3,176	△235
研究経費	3,093	3,676	4,119	4,380	4,368	4,727	4,164	△563
診療経費	11,373	15,801	17,500	18,627	19,451	20,991	21,023	32
教育研究支援経費	503	892	899	906	979	1,136	1,127	△9
受託研究(事業)費	1,140	1,944	1,961	1,826	2,021	2,649	2,980	331
人件費	26,413	28,623	30,121	30,133	30,389	32,561	33,537	976
一般管理費	1,345	1,207	1,233	1,196	1,264	1,426	1,394	△32
財務費用	390	399	394	367	346	343	312	△31
雑損	-	3	3	7	7	3	5	2
経常収益(B)	46,524	57,236	60,244	61,409	62,953	66,103	66,696	593
運営費交付金収益	17,490	17,434	17,957	16,244	15,748	17,402	17,770	368
学生納付金収益	8,741	8,628	8,323	8,542	8,267	8,222	8,327	105
附属病院収益	16,159	24,263	26,529	28,772	29,904	29,903	30,610	707
寄附金収益	1,094	1,023	1,138	1,287	1,414	1,374	1,259	△115
受託研究等収益	1,127	1,745	1,727	1,658	1,942	2,508	3,040	532
受託研究収益	750	1,291	1,288	1,205	1,436	1,972	2,440	468
共同研究収益	378	454	439	453	506	536	600	64
その他の収益	1,913	4,143	4,570	4,906	5,679	6,694	5,689	△1,005
経常利益(損失)(B-A)	632	2,543	1,462	1,083	693	△1,144	△1,021	123
臨時損益(C)	401	△480	△166	△123	△239	△536	142	678
前中期目標期間繰越積立金取崩額(D)	-	15	65	7	-	-	-	-
目的積立金取崩額(E)	-	-	-	39	53	759	57	△702
当期総利益(損失)(B-A+C+D+E)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△822	100

利益の処分に関する書類

(単位：百万円)

区分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	H27	差引H27-H26
当期末処分利益(当期末処理損失)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△822	100
当期総利益(損失)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	△822	100
利益処分額(損失処理額)	1,033	2,078	1,361	1,006	507	△922	3,389	4,311
積立金	-	26	1,361	763	507	△922	3,389	4,311
目的積立金	1,033	2,052	-	243	-	-	-	-

(参考) 決算報告書

(単位：百万円)

区分	H16	H22	H23	H24	H25	H26	H27	差引H27-H26
収入	46,434	61,734	62,605	62,806	73,703	74,995	66,979	△8,016
運営費交付金収入	18,207	17,853	18,447	17,104	18,242	18,668	18,332	△336
補助金等収入	-	3,184	1,490	2,011	3,442	4,310	2,176	△2,134
学生納付金収入	8,082	8,514	8,323	8,262	7,262	8,089	8,048	△41
附属病院収入	16,159	23,820	25,584	28,434	29,853	29,596	30,398	802
その他収入	3,986	8,363	8,761	6,996	14,903	14,331	8,023	△6,308
支出	46,183	59,107	62,173	61,563	73,249	75,488	66,159	△9,329
教育研究経費	20,484	22,757	24,321	23,027	23,074	25,136	23,803	△1,333
診療経費	14,598	24,447	27,418	29,480	31,187	32,466	32,439	△27
一般管理費	5,806	-	-	-	-	-	-	-
その他支出	5,295	11,903	10,434	9,055	18,989	17,885	9,917	△7,968
収入-支出	251	2,627	432	1,244	453	△492	819	1,311

決算報告書は、財務諸表とは別途に、現金主義を基礎とする国の会計に準じて作成する書類である。



CHIBA UNIVERSITY

FINANCIAL REPORT 2016

平成27事業年度

平成27年4月1日～平成28年3月31日

発行：国立大学法人 千葉大学財務部

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：043-290-2053 FAX：043-290-2049

MAIL：cak2053@office.chiba-u.jp



CHIBA
UNIVERSITY

千葉大学コミュニケーションマーク

このマークは、千葉大学が「世界最高水準の教育研究機能を有する総合大学」としてさらなる発展を遂げていくため、平成28年2月に制定しました。マークの色は、大学カラーのガーネットを基調としてデザインしており、形は、本学のビジョン「Global、Research、Innovation、Branding、Synergy」の原動力となる、学生・教員・職員のコミュニケーションを表現しています。構成員一人ひとりが、様々な場面でこのマークを使用することで、大学の一体感を強めるとともに、千葉大学ブランドを高めていきます。